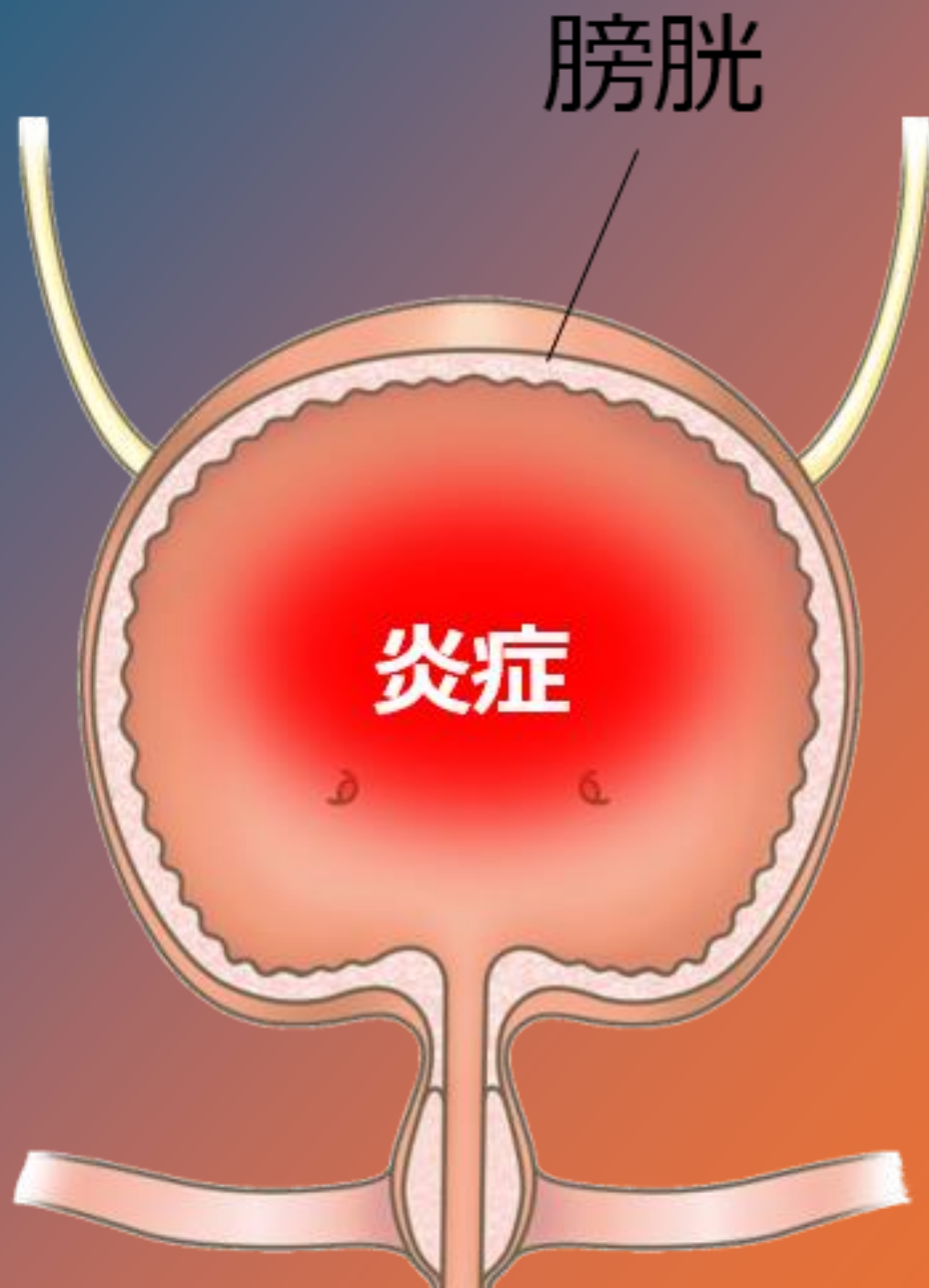


# 複雑性膀胱炎

はら泌尿器科クリニック





# 複雑性膀胱炎？

聞くだけで難しそうな名前で、

だいぶ重そうな病気の気がしますね。  
しかしそんなに理解しにくくはありません。

複雑性膀胱炎とは、

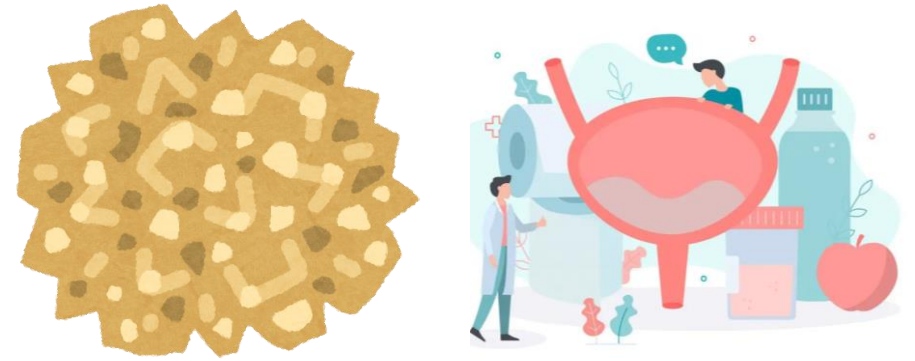
何らかの器質的な(結石、膀胱腫瘍、  
神経因性膀胱など)原因があって、  
それによって膀胱炎になっているとい  
うことなのです。

# 治癒しない??

---

膀胱炎だと思って抗生剤を投与していても、なかなか治癒しなかったり、膀胱炎を繰り返す場合には結石や膀胱腫瘍、神経因性膀胱が背景にあることを疑って検査することが必要です。

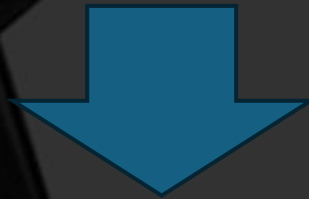
頻度的にはごく少数です。



# 診断方法として

---

神経因性膀胱 膀胱がん 膀胱結石などの疾患があった場合は治療する必要があります。



具体的な検査としては膀胱を詳細に調べる膀胱鏡が有用です。膀胱鏡にて膀胱内を精査することで詳細な膀胱の粘膜の状態や膀胱結石 膀胱腫瘍の有無を調べることができます。

# 膀胱鏡の適応



膀胱鏡検査は、光ファイバー製の硬性または軟性内視鏡を膀胱に挿入し、膀胱内や尿道を肉眼的に観察する検査です。

膀胱腫瘍や膀胱結石、膀胱憩室、間質性膀胱炎、前立腺肥大症、尿道狭窄などが疑われる場合。

血尿、慢性または繰り返す尿路感染症、尿失禁、排尿障害などの原因を精査するために施行されます。



# 小さな膀胱がんは見つけれない？

超音波検査では大きな癌を見つけることは有用ですが、極小の膀胱がんや表面が平坦な膀胱がん、いわゆる尿路上皮内癌については診断をつけることができません。



こうした理由から当院では膀胱鏡を勧めしています。

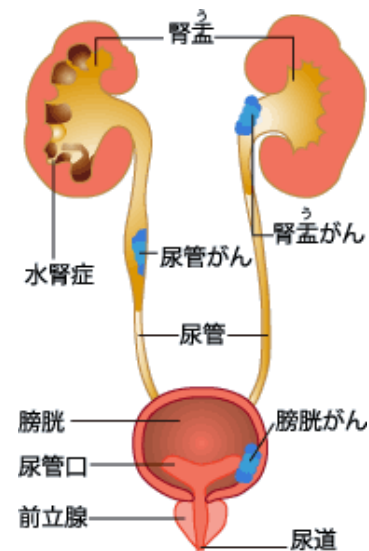


# 上部尿路検査の必要性

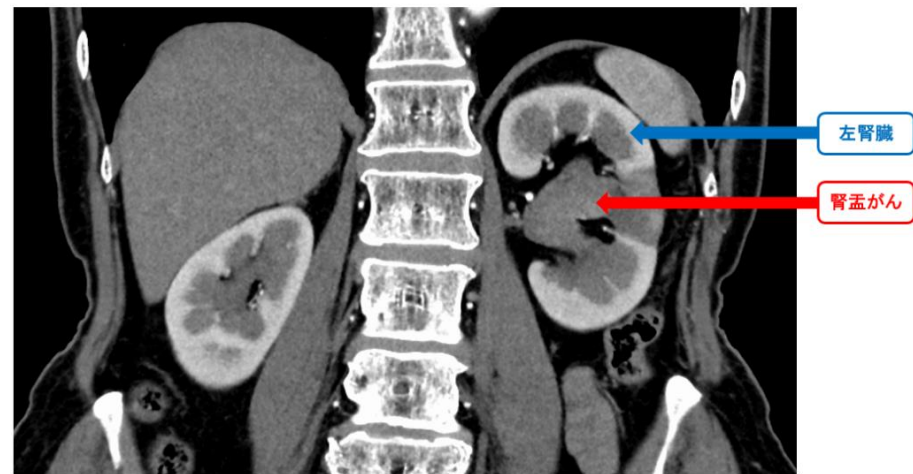
また上部尿路の検索に造影CTもお勧めしています。その理由として腎盂から尿管にかけて上部尿路にも尿路上皮がんができていた場合にも血尿が出ることもあるからです。造影CTだけでは下部尿路である膀胱内の詳細な状態の評価はできません。

また膀胱鏡だけでは

上部尿路の評価はできません。



CT画像



# 補完するため

お互いの弱点を補う形で肉眼的血尿を認める患者さんには膀胱鏡と造影CTの併用をお勧めしています。またそのほかの原因としてCTにて尿路結石の鑑別診断を行うことができます。最後になりますが、尿路上皮がんは喫煙者では4倍のリスクがあり特に男性に多い疾患です。

年齢的にも比較的40代から50代でも見られる疾患であるため早期発見には膀胱鏡&造影CTによる尿路の評価が必要と考えております・・・





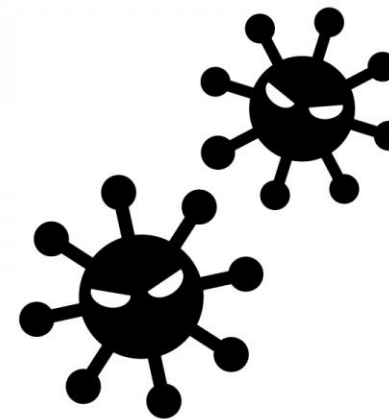
# 膀胱鏡のデメリット



やはり羞恥心があります。

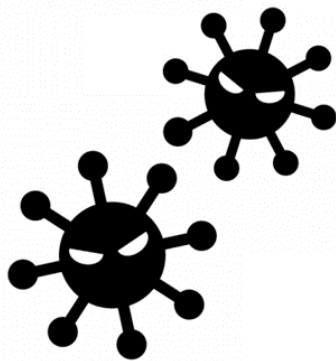
また痛みに関しては個人差がありますので一概に言えませが潤滑ゼリーを使用して検査を行います。男性の場合には前立腺が大きい方では挿入に出血することがあります2から3日程度で改善してゆきます。

感染症のリスクもあり場合によっては抗生剤の内服や点滴が必要となることもあります



# 感染リスク

膀胱検査によって、尿道や膀胱内に細菌が入り、膀胱炎や前立腺炎を引き起こすことがあります。洗浄・消毒された器具を用いますが、検査後に膀胱炎のような症状が出たり、腎盂腎炎・前立腺炎などを起こし熱が出る場合があります。





これらのリスクを最小限に抑えるために、医療スタッフは  
洗浄、消毒された器具を使用し、適切な手順を守ります。

また、患者さん自身も検査後に十分な水分を摂取することで、感染リスクを低減することができます。それでもなお、検査後に排尿時の痛み、発熱、または異常な尿の臭いなどの症状が現れた場合は、すぐに医療機関に連絡してください

最後に . . . .